

# 土佐希望の家通信



<発行>重症心身障害児(者)施設 土佐希望の家 高知県南国市小籠107 TEL 088(863)2131/FAX 088(863)2133/  
<http://www.tosakibou.jp> Email:tosakibo@i-kochi.or.jp 発行責任者 門田 正坦 編集責任者 中屋 淳

**HAPPY LIFE**  
**家族の窓**  
**No.12**  
**福井晴之様**  
**3病棟**  
**ひまわり**



3病棟にお世話になっていきます福井晴之の弟、三男といひます。いつも兄が大変お世話になっていきます。

彼は生まれて53才まで両親のもとで生活をしていました。父や母は自分達が亡くなる前に非常に彼の将来のことを心配しておりました。幸いにも土佐希望の家在宅グループから入所となり本人の生活の視野が広くなりました。療育や看護の両面が充実された施設に入ることが出来、本当に良かったと思っております。父母ともに安心して居ることと思っております。

今年彼は3月に土佐希望の家分校の高等部を卒業することができました。希望の家に来てから中学部を卒業後、数年して高等部を受験しました。本人が希望していたことが出来まして大変喜んでいきます。

しかしこの間には高齢者のため多くの皆様にお世話になりました。施設の職員の皆様をはじめ、学校の先生方そして多くの保護者の皆様が暖かく優しくご指導していただきました。本当にありがとうございます。

今までは目標があり気合が入っていましたが、環境の変化に対して切り替えがうまくいかどうか少し心配しております。高齢者のため今後も施設の皆様には何かと迷惑をお掛けする事が多くなりますが、本人は非常に前向きで一所懸命のところがありますので、頑張っていく事と思ひます。テレビを見てカラオケを歌って「鳴子」を鳴らしてにぎやかにすることが大好きですから、楽しく生活をしていってくださることを思っています。どうかよろしくお願ひ致します。

## A型通園から生活介護・B型通園へ

在宅支援センターでは、A型通園利用者が年々多くなり、定員15名ではもう対応しきれなくなり生活介護とB型通園への移行となりました。新しく移行するにあたっては不安も多くありましたが、現状では新しい利用者の方や、現在利用されている方の回数増も見込めないため、生活介護+B型通園へ踏み切りました。

利用者の方も増える分、職員も増えたので、取り組みや送迎・入浴なども利用者や保護者の方の要望や希望に添えるよう、また、個々への細やかな対応、個別支援ができるように職員一同力を合わせて頑張っていきたいと思っております。

しかし、職員だけでは気が付かないところなどもありますので、保護者の方や利用者の方に、注意や意見をいただきよりよいサービスを提供していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたしたいと思ひます。

移行したからには、利用者の方や保護者の方から「生活介護になってよかったね」と言われるように、良い通園部にしていきたいと思いますので、再度御協力をお願いいたします。

生活介護課長 竹内栄一



## 長先生就任のあいさつ



長 博雪  
副施設長

はじめまして。4月より、ご縁があって、この土佐希望の家へ常勤医師として勤務させて頂いていただくことになりました。長 博雪(ちよう ひろゆき)と申します。よろしくお願ひ申し上げます。今まで、東京多摩地区にあります、重症心身障害児施設「みどり愛育園」に26年あまり勤めて参りました。そろそろ、ふるさとの九州博多に戻ろうと思つていましたら、四国に寄つていきませんかということになり途中下車。こちらに勤めさせて頂いていただくことになりました。

4月9日より、当施設の横の宿泊施設に泊めて頂いております。田植えを終わった田んぼでは、蛙の大合唱。すぐそばまで里山がせまり、朝になると裏山からホウホウキョウとウグイスの鳴き声。山吹の花。滴るような緑。なんとという素晴らしい自然に恵まれているのでしよう。全国的には自然破壊で蛙などが激減しているというご時世。この豊かな環境のなかで、入所利用者の方たちと共に生き、ケアのお手伝いができる幸せを感じます。利用者の方に、「ここにきてよかった」と言つていただけるようなケアを目指して頑張ります。自分が積極的にできることは少ないと思ひますが、みどり愛育園での研修等の窓口になることは可能と思ひます。

## 私の仕事



2病棟看護師  
三好佐代

希望の家に就職させていただいて二十数年の歳月が過ぎようとしています。少々のやな事があったり、疲れている時でも、利用者の方の笑顔やふと見せる表情に随分と癒され励まされてきました。長年勤めてこられたのは、そのような笑顔のおかげであると言つても過言ではなく、とても感謝しています。

就職した当時、障害者の方との接し方がわからず、何を思い、何を感じているのか、何を求めているのか、どうすれば喜んでもらえるのかわからず戸惑つていたことを思い出します。

当時の上司に「ここに居る人達は、自分の意思で訴えることのできない人が殆どだから、保護者の意見によく耳を傾けなさい。保護者が代弁者です」と教わりました。

今でも、保護者の方からご意見を頂く度、その言葉を思い出します。傾聴し、至らぬ点を正す事は勿論ですが、様々な理由から思いを全て受入れられない事もあり、そのような時は利用者の方にとって今現在最善の方法を保護者の方と共に話し合うことも必要だと思つていきます。

利用者の方が「本当に求めているもの」を知るのには容易ではなく、経験知だけで思い込みの看護をしているのではないかと、自己満足のケアをしているのではないかと日々考えさせられることが多いですが、どうすれば利用者の方にとつての「より良い看護」「より良い生活」につながるのかを意識的に考えて行動できるよう努めていきたいと思つていきます。

## 卒業式



次に自分自身の事の紹介。昭和24年丑年の生まれ。四国に居住したことはありません。まして土佐は初めて。右も左もわかりませんのでよろしくお願ひ申し上げます。お酒はちよつと飲んだだけで真つ赤に。春風のなかを自転車でゆくり走つてみたい。考古学や古代の歴史に興味。平安時代、奈良の都からやってきた紀貫之さんは、このあたりに住んで居られたと聞きます。

いづれ、女房と黒猫1匹(名前:のりちゃん、メス、年齢不詳)が引越してきて、高知市内に住む予定。ほんの数日しか経っていませんが、土佐の人々の温かさ、やさしさを感じ感激しております。今後とも宜しくお願いいたします。

2010年4月1日



みなさんご卒業おめでとうございます!



【寄付金・寄付物品】

小林豊様 後免町社会福祉協議会様 前田時恵様 安芸菖子様 松村隆志様 中村浩士様 久富久貴様 大前寛則様 三宅伸様 近藤範昌様 柏野智典様 高津晃治様 新村真様 守谷陽介様 片岡迪之様 西村昊一様 田村賢一様 岡崎和代様 若林香織様 野嶋敦子様 田村親仁様 坂田二子様 窪川成生様 吉川清志様

ありがとうございました。  
 今後ともよろしくお願ひ致します

## ☆ 編集後記 ☆

今年春は新入所の方が4名各病棟にいらつしやいました。また、長博雪先生も着任されて新しい年度がスタートしました。希望の家分校もたくさんさんの学生さんが増えて活気のある一年になっていきそうです。



## 入学式

3月16日、土佐希望の家分校で卒業式が行われました。今回、施設生としては伊部さん(小学部)、大久保さん(中学部)、野村さん、福井さん(高等部)が卒業されました。たくさんさんの思い出ができましたね。卒業は少し寂しいけど、ご卒業おめでとうございます。

4月8日、土佐希望の家分校で入学式が行われました。今年には9名の新入生が仲間入りしましたが、そのうち施設からは4名の皆さんが入学されました。伊部さん、今田さん(中学部)、大久保さん、宗圓さん(高等部)です。これから学校でたくさんのお友達と楽しくがんばっていきましょう!



今年はたくさん9名の新入生です!

**土佐希望の家創立40周年お知らせ**

今年6月で土佐希望の家は創立40周年を迎えます。6月6日(日)11:00~高知新阪急ホテルで記念式典が行われます。また、土佐希望の家でも6月13日(日)11:00から施設内で祝う会を予定しています!!





「手のひらを太陽に」熱唱中！！  
2病棟のみなさん

# お花見・カラオケ大会

4月18日(日)、第2回お花見カラオケ大会が開催されました。晴天にめぐまれ、童謡から演歌まで、青空いっぱい大きな声で歌いました。みごと「カラオケ大賞」に輝いたのは、「手のひらを太陽に」を元氣よく歌った2病棟のみなさんです。おめでとうございます。

花の香りのするお母さんたちのフラダンスは好評でした。

- ⑦ 人材育成の仕組みをつくる。
  - ・能力開発シート(個人目標管理)の活用をすすめる。
  - ・キャリアアップ制度(療育指導養成コース)の設立に取り組む。
  - ・プリセプター制度を導入する。(新人職員に2〜3年職員を1年間指導係としてつける)
  - ・階層別グループ研修を引き続き実施する。
    - 新人・2年、10年以上、20年以上の階層別による実践力研修(グループワーク)
  - ・職場研修の中に介護基本技術の技術研修を計画し実施する。
  - ・外部研修に参加し、専門知識や技術を身につける。
  - ・運営管理、職員指導育成の管理職研修を行う。(理論、実践的事例研究)
- ・他施設交換研修や病棟間交換研修を実施する。
- ⑧ 利用者によさしい介護基本技術を習得し、実際の介護に応用する。(実践的症例研究)
- ⑨ 福祉機器の増設、活用をすすめる。
- ⑩ 病棟外の日中活動支援を実施する。
- ⑪ 利用者の痛みや不安感を和らげるケアとしてタクティールケアを試みる。
- ⑫ 実践研究課題を決め、実践研究に取り組む。

- (2) 1病棟
  - ① 散歩回数を増す。(1人平均月4回以上を目指す)
  - ② お楽しみ会の見直しをすすめ、利用者のニーズを考慮した取り組みとし、サービスの選択肢と頻度を増やす。
  - ③ 職員のスキルアップの勉強会を行い、実際の支援に活かす。取り組む内容は、介護基本技術とする。
- (3) 2病棟
  - ① 日中活動支援を充実させ、利用者の笑顔を創る。
  - ② 外出回数を現在の2回/月から、回数を増やす。
  - ③ 小集団活動を現在の1回/週から、回数を増やす。
  - ④ 誕生会を水曜日の午後に変更し、東西合同で行う。楽しめる事を企画し内容を充実させる。
  - ⑤ 車椅子ダンスを月2回の計画とする。
  - ⑥ スノーズレンを実施する。
- (4) 3病棟東(あざみ)
  - ① 介護の基本姿勢を徹底し、利用者の個性を尊重した援助を行う。
  - ② 皆が同じレベルのサービスを提供できるように業務の標準化を行い、誰がしても同じ介助が出来るように努める。
- ③ 利用者のニーズに沿った日中活動支援を行い、集団活動、個別活動を充実していく。
- ④ 広がった食堂スペースを有効利用し、各部屋の生活環境の改善を図る。
- ⑤ 職員の資質の向上を目指し、積極的に研修に参加させる。
- ⑥ 浴室へのリフト機器導入を検討する。
- ⑦ 職員体制のあり方を検討する。
- (5) 3病棟西(ひまわり)
  - ① 生活支援基準に基づいて利用者ひとり一人の生活を振り返り、見直しを行っていく。
  - ② 皆が同じレベルのサービスを提供できるように業務の標準化を行い、職員ひとり一人の責任ある行動に繋げていく。
  - ③ 居室単位や小グループ制での取り組みの充実を図る。

- 相談支援部門**  
**相談支援事業・障害児等療育支援事業**
- ① 県・市町村と連携し、在宅の重症児・者の相談支援を充実する。
  - ② 学校や保育所からの療育技術の指導の要望について応える。

- 通園部門**  
**生活介護・B型通園事業**
- ① 在宅重症児・者の運動機能低下の防止や発達を促進し、保護者の介護負担の軽減を図る。
  - ② 職員の介護技術の向上と研修への積極的な参加を図る。
  - ③ 送迎の充実を図る。
  - ④ 入浴日を増やすよう検討する。
  - ⑤ 新たな事業体系の円滑な移行を目指す。
  - ⑥ 利用者は、B型通園では平均5名、生活介護では平均15名の確保に努める。
  - ⑦ 個別支援計画を充実さす。

## 平成22年度 事業計画 (重点目標)

- 法人全体**
- ① 職員ひとり一人が、重症心身障害児施設の役割について理解を深めるとともに、理念の実現に向けて、私たちの行動指針を実践し、良質な医療と豊かな暮らしを提供する。
  - ② 在宅支援に積極的に取り組む。
  - ③ 新たな事業(生活介護事業、相談支援事業)を軌道に乗せる。
  - ④ より豊かなサービスを提供するため、施設の拡充に取り組む。
  - ⑤ キャリア・パスを整備する。
  - ⑥ 各専門領域における技術や知識の向上を図るため、積極的に研修に取り組む。
  - ⑦ 与薬ミス、骨折事故の減少と、院内感染の防止に努める。
  - ⑧ 保護者とのコミュニケーションを密にする。
  - ⑨ 人材の確保と養成に努め、利用者へのサービスの充実と施設運営の安定化を図る。
  - ⑩ 土佐希望の家創立40周年記念事業を行う。

- 重症心身障害児施設**
- 1 事務部
    - ① 業務の効率化、迅速化、適正化に努める。各人のスキルアップに努める。
    - ② 新事業や施設整備に伴う事務手続の適正な処理に努める。
    - ③ 福祉や医療の制度改革に関する情報収集に努め、的確に対応する。
  - 2 医務部
    - (1) リハビリ
      - ① 重症児(者)へのリハビリテーションサービスの充実を図るとともに、収入増につなげていく。
      - ② 利用者のQOLの向上につながるように、他職種との連携を強化する。
      - ③ 重症児(者)リハビリテーションに関する研修、学習に取り組み、技術、知識の向上に努める。
    - (2) 検査
      - 精度の良い検査データを提供と、超音波診断装置の操作技術の向上に努める。
    - (3) 薬剤
      - ① 調剤ミスをゼロにする。
      - ② 薬剤管理指導料の届け出に向けて検討を行う。
      - ③ 後発医薬品の採用を検討し、経費の節減に努める。
    - (4) 給食
      - ① 利用者との交流をテーマに行事食の充実に取り組む。
      - ② 食事形態については、ペースト食の拡充に取り組む。
  - 3 看護部
    - (1) 共通
      - ① 利用者との密に関わり、生活の質の向上に取り組む。
      - ② 利用者の異常の早期発見や重症化に対応できる技術を高める。
      - ③ 利用者や保護者、同僚と良い関係を持てる看護師を目指す。
      - ④ プリセプター制度を導入する。
      - ⑤ 他施設への派遣研修を実施する。
    - (2) 1病棟
      - ① 看護・療育間の情報交換や意見交換を密に行い、利用者の生活水準の向上に努める。
      - ② 利用者の異常の早期発見と早期対応に努める。
      - ③ 感染症の拡大防止に努める。
      - ④ 保護者に積極的に情報を伝え信頼関係を築く。
    - (3) 2病棟
      - ① 利用者個々の状態やニーズに沿った気配りや配慮のある看護やケアを行う。
      - ② 利用者の高齢化、重症化や急変時に対応した体制の整備・強化ならびにスキルアップに努める。
      - ③ 保護者や他職種との円滑な連携を図る。
    - (4) 3病棟
      - ① 知識や技術の向上及び誤薬防止に努め、安全で安心できる医療を提供していく。
      - ② 利用者とのコミュニケーションを深めニーズに合わせた援助をしていく。
      - ③ 感染防止に努める。

- 4 療育部
  - (1) 共通
    - ① 生活支援基準を活用し、利用者本位のサービスを提供する。
    - ② 利用者の健康、安心、安全を守り、事故・誤薬防止に努める。
    - ③ 利用者の高齢化や重症化に対応できる、生活支援を組み立てる。
    - ④ QOLの向上をめざし、利用者の自己選択、自己決定の機会が生活場面にできるように個別支援計画を立てる。
    - ⑤ 看護・療育・リハが一体になった総合的な個別支援計画を導入する。
    - ⑥ 課長及び主任が、サービス管理責任者の役割を持つようにする。

## 創立四十周年を迎えるにあたり 第四話 山崎 敏



昭和四十五年六月、新土佐希望の家開園の日、土佐山田町の私立希望の家は閉鎖となり、義母が涙と共に表札を降ろしました。

この家での4年間は、私達の二人の母親にとり、孫の「昇」も含めて6人の重症児の介護を一年三百六十五日、一日の休みも無く、二十四時間勤務で遣り遂げてくれました。それはもう仕事としてではなく、自分達の家族として見てきたから出来たと思います。孫の「昇」が居なくなつて、もう続けられないだろうと思つたからです。しかし二人の母からは、五人の重症児と、新施設が出来来る迄頑張りから、あんた等も頑張りなさいと反対に励まされました。残された五人の子供の親たちにも家は続ける事を伝え、またマスコミ関係を通じて新施設が完成する迄、「こ」は継続することも公表いたしました。妻も、「こ」で止めてしまつては、私達の子供として生まれてきてくれたのに、病気で早く死なせてしまった「昇」にも申し訳ない。あの子のためにも新施設は造らないかん」と、家族の思いは一致しました。ここでの四年間があつたからこそ、新施設へと繋がつたのです。

土佐希望の家の開園にあつて、今一つ、忘れてはならないお二人の先生がおいでです。当時、岡山旭川荘の児童院長をなさつ

ておられました江草安彦先生と、同院の医師として勤務なされておりました末光先生(現旭川荘理事長)のお二人です。

元々、私が施設建設を計画した際、先ずした事は法人の設立で、その代表者として故坂本昭先生にお願ひ致しました。

先生は、当時高知市で健康相談を開設されておいて、東京大学医学部出身の医師でした。或る人の紹介でお会いし、重症児のお話を致しましたところ、それは大変だ、私にも手伝わして下さいとお話したので、何度かご相談にお伺ひ致しておりました。施設建設の為の法人設立と理事長就任をお願ひ致しましたところ、快くお受け下さり、更に理事として五人の医師を役員としてご紹介下さいました。

その後、坂本先生が高知市長選に立候補されるとの話を聞き、相談所に飛んでいき、無謀にも立候補を止めて下さい、市長に成りたい人はいくらでもいますが、希望の家の施設長になつてくれる人は先生しかいません」と云つてしまいました。勿論私のお願ひ等で先生の立候補が止まる訳はないのですが、私も必死でしたので思はず無礼な言葉が出てしまったのだと思います。そんな中で、かねてよりご指導を受けていました、江草先生の助け舟があり、これこそ地獄に仏の言葉通りで、予定通りに開園することが出来ました。

しかし、一年間とのお約束でしたので、開園即、後任施設長探しに取り組みました。幸いにも南国市内で診療所を開業されておられました山岡鹿吉先生が診療所を閉鎖されるとの情報を得、先生は私の困惑をお察し下さり、末光先生の後任をお引き受け下さることとなり、更に末光先生を一日でも早く旭川児童院にお帰りのたかなくてほならない状況にも有りましてので年

明け早々の一月上旬に就任を御快諾下さり、江草先生、末光先生御両人に対し、僅かながらの心意気をお見せする事が出来ました。

両先生には、その後も何かとお世話様になり、土佐希望の家が今日あるのは、両先生の御支援のお陰と深く感謝致しています。

いよいよ本年六月には開設四十周年を迎えますが、私の任期中には常時医師不足に苦しみられていました。その後間もなく、理事長がご就任くださつてからは、優秀な先生方がご着任され、医療面での充実が出来ました事を大変嬉しく思っています。

これも不思議なご縁ですが、施設長の江口先生とは、昇が生まれて間もない、まだ0才児であつた頃、先生が県立子鹿園に勤務中、一度診察を受けた事がありましたし、新任の長博雪先生は、昇が一時東京都内の病院に入院していた所の院長先生をなさつておられた方だと聞きました。勿論年代が違いますが、お目にかかった事はございませんが、それもこれも何か不思議なご縁の様に思えます。今は唯、時たま施設におじやまするだけですが、顔見知りの職員さんや保護者の方々、利用者さんにお目にかれるのを楽しみにしています。

その縁で、この通信にも拙文を書かせて戴きましたが、どうか最終回を迎えまして、ご愛読有難うございました。

おわり

山崎敏元理事長、ありがとうございました。設立当時のご苦労など初めて知ることも多くありました。これからも土佐希望の家をあたたく見守ってまいります。